

令和元年度 藤枝明誠高等学校 中間学校自己評価 ※ 評価基準 A：十分に実践されている B：ある程度実践されている C：不十分である D：わからない

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」「自然愛や人間愛を大切にす豊かな情操」を培う。また、日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。						
重点項目	I 学習指導の充実 II 進路指導の充実 III 心豊かでさわやかな生徒の育成 IV 広報・渉外活動の充実 V 教育施設・設備の活用			自己評価		学校関係者評価	
重点目標	項目	令和元年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標 【 】は数値的目標	平成30年度実施結果(成果は○、改善すべき事項は◇) ※丸数字は左欄丸数字の項目に対応	評価	教員からのコメント (評価理由・意見感想・改善点) (71名)	評価	学校関係者評価委員からのコメント (8名)
I 学習指導 の充実	授業改善への取り組み	①生徒の意欲が高まるような分かる授業を実践するとともに授業改善を努め、授業アンケートの結果向上を図る 【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足)の比率95%】 【授業満足度(生徒)と自己調査(教員)を年4回実施】 ②普通科と英数科、各クラス間、各教員間の指導の格差を改善し、指導の共通化を図る ③定期テスト後に教科会議を開催し、学力定着度の検証及び教科指導の改善を行う ④各教科、中堅以上の教員がテーマを設定した研究授業を行う	①◇【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足)の比率94.1%】 ○【生徒の授業満足度調査、授業に対する教員自己調査とも年4回実施した。】 ◇授業満足度調査の満足度は高い水準にあるが目標値に達していないため、結果を活かしての授業改善を更に進めたい。 ◇すべての教科で授業技能に関するノウハウの共有化を更に進めたい。 ②◇英数科と普通科の指導の共通化が進められているが、クラス間や教員間の指導の格差がまだまだ大きいいため、更に改善が必要である。 ③○教科会議を毎週行える状況(時間割)があり、指導の改善のための教科会議が実施されている。 ④◇研究授業は実施されているが、ノウハウの共有化という目標の浸透には至っていない。	A 8.5 % B 74.6 % C 12.7 % D 4.2 %	・教科会議の時間は有効に活用している。今年度は中学部との連携も取れていると思う ・授業満足度調査を参考に授業改善に取り組みことができた ・英数科と普通科の両方を担当している教員がおり、教員の授業への向き合い方などの共有化が行われている ・教科会議がほぼ毎週あるので、教員間の意思疎通がよく図られ、各々が積極的に問題点を挙げるようになった ・生徒の実態に合わせ、その都度こちらの評価水準や要求水準を上下させている ・普通科と英数科の指導の共通化については改善の傾向にあると感じている ・英数科の授業はある程度軌道に乗っていると思うが、普通科は手探りでやっている。慣れるのに時間がかりそう ・教科会議を十二分に活用し、定期テストにおける新テスト対策問題の内容検討・導入、実施後の検証等に時間を取りたい ・新課程・新テスト(共通テスト)を意識し、継続していく必要がある ・授業アンケートには生徒が意見を記述する欄があってもよい ・教員への結果提示が遅すぎる ・授業アンケートの結果を頂けるようになったが、その次の試験後などが多い。もっと早目に受け取って、授業の改善につなげたい ・生徒の学力を伸ばすために課題を与えるなど厳しくすればアンケートの評価が下がる。これが難しい。普通科の大部分の生徒にとっての良い先生は優しく、楽な先生であるということ。満足度が高くても、学力が下がり続けている普通科の現状をどう見るか ・指導格差はあると思う。指導格差を改善するために、何か具体的な策があるのか、また、それを実行しようとしているのか、よくわからない ・普通科の授業への取り組みが不十分。共通化が図れていない。 ・普通科と英数科の格差は高校3年間で大きくなる一方だと予想される ・普通科と英数科の差をなくすように教員間の理解は進んでいるが、まだ理解しない教員もおり、十分ではない ・普通科・英数科の指導の共通化として、共通でなければならぬ指導内容と普通科・英数科それぞれで受験の特色で異なる指導内容を話し合い、それを共通認識として実践していく必要がある ・生徒の学力格差について教科内である程度共有・理解されているが、対策も必要である ・クラスによって差がある状況も変化なし ・教科によっては研究授業が行われていない ・教員の自己調査の質問内容が適当でないものが多い ・研究授業を参観することができなかった。どの程度重要視するか明確でなく、授業変更をしてまでも行くべきか自己判断してしまったのは、共有化する上で問題であった ・研究授業を実施するなら、(授業変更等の)準備ができるように考えてほしい ・今年度、研究授業を実施した教科とまだ実施していない教科がある ・研究授業の機会を通して、さまざまな意見を集約し、まとめて蓄積しておく記録帳のようなものが必要である ・ノウハウを共有したり、話し合ったりする時間がなかなか取れない。教員に余裕がない ・研修費用にも限度があるようだが、授業力を高めていくには研修は必須 ・自習が多い。自習について考えるべき。自習監督に行く教員も困る。特に、オープンキャンパス時 ・素晴らしい取り組みも全ての生徒に活用されていない状況がもったいない ・学力定着度の検証や教科指導の改善等、忙しくて、なかなか時間が取れない	A 0 % B 87.5 % C 12.5 % D 0 % %	・生徒の満足度の高さが指導の良さの表れである ・授業内容については子どもから意見など聞いていないが、理解できていない時は先生に再確認できているようである ・毎日の授業はとても大切な時間である。授業の積み重ねが学力の向上につながってくる。まだまだ改善すべき内容があるようなので、より向上してほしい ・普通科・英数科のそれぞれに対する指導内容の共有が必要ではないか ・普通科・英数科の指導格差を感じる。先生によってだとは思いますが、英数科だけが頑張ればよいと思われるような発言がある ・明確な学習に対してのんびりしていると聞いた。焼津中央でもかなり勉強に力を入れているようで驚いた ・昼休み、携帯で遊んでいる生徒が結構いるようだが、そんなことをしているのなら週テスト、追試、補講などをやってほしい ・学力の落ちている生徒への個別指導やフォローは行っているようだが、中ぐらいのレベルの生徒にも一度は個別指導を受けられるようにしてほしい ・高3で大学受験の勉強と定期テストの勉強の両立は厳しいようである。個々で対応するしかないと思うが ・来年度からの大学受験内容変更で生徒もどう取り組んだらいいのか不安なのではないか ・私学は授業料が高い分、それ相応の授業を望みます ・授業満足度調査にどの程度子どもたちは真剣に答えているのか、気になるところです ・アンケートの評価が下がるのは悪いことですか？子供たちは良い先生が優しく、楽な先生ではないことは本当に分っています。評価が下がることばかり考えて、課題を減らしたりして楽にするなど、進学校としては考えられないと思います ・普通科のことがずいぶん問題視されていますが、英数科の選抜でないクラスは大丈夫ですか？

<p>I 学習指導の充実</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学力の着目向上に向けた指導</p>	<p>①放課後プロジェクトや「9時まで学習」の一層の活性化を図る 【9時まで学習参加率 65%以上目標】</p> <p>②予習、復習、宿題の提出・点検指導等の徹底を図る 【復習テスト年5回実施】</p> <p>③英語検定指導等を継続して組織的に行う 【英検2級220名以上、準1級20名以上】</p> <p>④学力の基礎である国語力(文章読解や表現力)の向上のための取り組みを行う 【論理エンジンの有効活用・指導】</p> <p>⑤国際教養教育を推進する</p> <p>⑥普通科生徒の学力・学習意識向上のための指導を策定する</p> <p>⑦大学入試共通テストに向けて論述問題や英語4技能に対応した問題を定期テストに導入する</p>	<p>①◇図書室における放課後プロジェクトの参加は前年並みであった。 ○例年以上に職員室及び職員室前フロアで、積極的に個別指導を受ける生徒は増加した。 ◇「9時まで学習」の参加率は、H29年度の63%に対し55%と減少し、H28年度(54%)並みであった。今後、自学自習だけでなく補講などの仕掛けなども必要と思われる。</p> <p>②○各教科・各学年において、きめ細かな指導が実践された。各教科では、同学年の各教科・各コースの担当者間での連携が取れていた。今後『明誠ダイアリー』を利用しながら学習習慣の確立のさらなる強化を図りたい。</p> <p>③○【英検2級既取得者数273名、準1級既取得者数16名】英検準1級既取得者数は目標値に達しなかったが、2級既取得者が大幅に増加しており、英語の学力が全体に向上しているといえる。</p> <p>④○論理エンジンによる指導が実施されているが、引き続き国語力向上に努めたい。</p> <p>⑤○ドリム・ゲイトウェイ・プログラムや国外からの教育訪問団との交流により、グローバルな視点を持った発信力が涵養された。</p> <p>⑥◇H30年度より土曜日を利用した教科横断型の授業を高3総合コースで実施し、生徒の学習に対する意欲の向上にある程度貢献できたと考えているが、引き続き実施し、更なる工夫を加える必要がある。</p> <p>⑦○各教科において、大学入試共通テストに向けて定期テスト等の工夫を行っている。</p>	<p>A 21.1 % B 69.0 % C 7.1 % D 2.8 %</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「9時まで学習」においては国語・英語で自由参加の補講を行った ・本年度の「9時まで学習」の参加率は65%を超えており、国語・英語においてはセンター対策講座も実施され、例年より充実した内容になっている ・「9時まで学習」でも講座を開講し、生徒の基礎学力の向上に力を入れることができた。また、夏期講座では約70の講座を高3年部で実施し、生徒の多様なニーズに応えた ・「9時まで学習」に参加している生徒は積極的に学習に取り組んでいる様子が見られる ・総合文系の生徒も有効に「9時まで学習」を活用している ・論理エンジンにより基礎的な力を身につけていると考えられる。ネームバリューが落ちてきたからといってやめないほうがいい ・英検の対策がしっかり行われていた ・本校の英検への指導には力を入れていることがわかり、とてもよいと思う ・英検2級・準2級の普通科合格者は例年よりもかなり多い ・かつて準1級は選ばれたごく少数の生徒のものだったが、近年は珍しいものではなくなってきた。生徒の中にハッキリと動機が育ってきていると思う ・英検指導が生徒の自活につながっている ・各教科よく指導されている ・共通テストへの対策など夏の補習である程度の成果を挙げたと思うが、これからもっと研究する必要がある ・英検への取り組みと合格者は多くなっている(高2・3)が、下位層のレベルアップを確実にやっていきたい ・英語の4技能の指導準備を学校全体でしっかりとしたい ・英検の取り組みが指定校をもらうためだけにっており、本来の意味(目的)からずれているのではないかと思う ・普通科総合文系クラスの生徒はほとんどがAO入試やスポーツ推薦のため、英検の価値が低い ・自習ができない生徒の増加。その結果、塾に通う生徒が増えている。「9時学」に出ない生徒は皆、塾に行っている。放課後の時間の使い方にも変化(指導)が必要なのではないか ・検討すべき項目がある。自習だけでは学力が向上するとは思えない。講座を開くにも教員数など問題もある ・新テストに向けた問題が取り入れられているかは国語や英語の教員以外はあまり確認できない。実際どうなっているのか、分からない ・国語力について国語科全体で協力して取り組んでいるが、文章力育成を図るために読書などをもう一度実施し、インプット・アウトプット能力を伸ばしていかなければならないと思う ・国語が重要な教科であるという意識が低い。改善する必要がある ・復習テストについての生徒への意識付けが十分ではなかった ・質問に来る生徒は少ないが、最も補充が必要な生徒が来ることは稀であった。呼びかけや補講などでより強く支援していきたい ・「9時まで学習」など熱心に行っている生徒とそうでない生徒の差が目についた。両者の隙間(差)をどうやって埋めるかが今後の課題である ・「9時まで学習」はやっていない人もいるので、やらないなら下校するようにした方がいい ・放課後プロジェクトは更にフィーチャーされてもいいかと思う。単なる自習会にとどまらず、講座や勉強会を開催できないか ・実施し過ぎているものもある。検証して整理する必要がある ・予習・復習、宿題の提出は各教科担当で実施していると思うが、方法・量など、ある程度共通理解できていた方がいいと思う ・総合文系に所属している生徒の学力をいかに伸ばしていくかということが今後大切になってくだろう。そのためにも高2の夏休み頃には「仮の志望校」を決定し、夏休み中の課題として志望理由書を書かせる必要がある。ただし、やらせっ放しにせず、その後の添削なども必要となってくる 	<p>A 0 % B 100 % C 0 % D 0 %</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後プロジェクトはとても良いと思います ・学校はスマホもありませんので、集中して勉強できると思います ・他の学習塾に通わなくても「9時まで学習」で保護者も安心である ・高1、英検準1級の指導を授業とは別にやってくださり、ありがたい ・「9時まで学習」が充実している ・ 受験指導に大変力を入れている ・指導する環境設定に大変努力されていると思う。その環境の中で生徒一人ひとりの本気のやる気が絡み合ってほしい ・「明誠ダイアリー」の有効活用は素晴らしい ・色々な科目での補講や受験対策をお願いしたい ・理解できない内容を確認したかったが、先生が帰ってしまったと聞いた。どうすればいいのか ・「9時まで学習」が本当に生徒の身になっているのか、疑問である
------------------------------------	---	--	---	---	---	--

<p>II 進路指導 の充実</p>	<p>進路希望の達成に向けたための種々な指導</p>	<p>①進路講話や個別面談、総合的な学習等(キャリア教育の推進を含む)により目標設定と進路意識の早期確立を図る</p> <p>②教員の教科・進路指導の力量向上を図る</p> <p>③教科検討会で模擬試験結果の検討を行い、生徒各個人に対応した指導を行う</p> <p>【年2回実施】</p> <p>④生徒の満足度の高い進路指導を行い、大学への現役合格達成を図る</p> <p>【現役合格95%】</p>	<p>①〇1学年は、文理選択の「夢ナビシート」・進路課による進路ガイダンス(文理選択と大学選びについて)・「学部・学科レポート」による学問分野研究、2学年は、学部学科説明会(大学職員による23学部・学科、H29年度より+8)・進路課と3学年担任による進路ガイダンス(センター試験と3年生の受験成果について)、3年生は大学説明会(大学職員による30大学、H29年度より+5)を実施し、進路意識の高揚を図った。</p> <p>②〇夏季の駿台研修には、若手を中心に例年並みの12人の職員が参加し、教科・進路指導力の向上に向け、研鑽に努めた。今後は、教科会で報告を行い研修内容の校内への還元を図りたい。</p> <p>◇経験があり指導力のある教員の指導方法・ノウハウの共有化を図るためにも、各教科で授業研究の回数をより増やしたい。また、『明誠ダイアリー』を活用したPDCAサイクルの確立が、学力伸長と進路実現につながることを職員の共通認識としたい。</p> <p>③◇外部模試後の分析・検証を受けての、教科全体のアクションの部分が弱いように感じられた。</p> <p>④◇四大志望者の大学現役合格率は86.4%(231人)で目標の95%を大幅に下回った。大学進学率は89%(209人)で、浪人がH29年度よりは若干減少したが、11.9%(26人)と本年もニケタ台になってしまったのは残念であった。</p>	<p>A 15.5 %</p> <p>B 69.0 %</p> <p>C 12.7 %</p> <p>D 2.8 %</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学研や駿台の研修に参加し、多くの新情報を得ることができ、教科や学年間で共有することができた ・駿台の研修は毎年行かせてもらっている ・本年度の高1は「夢ナビシート」を使用せず、ベネッセの「プランニング・ブック」を使っての文理選択研究となったが、その効果を検証する必要がある ・大学への意識付けを早いうちから実施しているから、生徒も早くから自主的に大学調べを行い、それに対しての教員のサポートが手厚い ・どの教員も生徒一人ひとりをよく見て対応している ・種々の試みが実を結びつつある面もあると思う。生徒が自分の実力を冷静に見たうえで(判断した上で)、熱い志望・モチベーションを持ち続けるという、一見相反するようなことを指導者の工夫で乗り越えていくことを目指したい ・高1・2年生の間で9割ほど目標設定を完了できるような環境づくりが大切かと思う。特に、高1年生は学校生活への慣れなど、主である学習以外のところにどうしても時間を取られてしまう。それを踏まえた上で、目標を少しずつ上方修正できる環境を各授業・教科で作し、可能性を引き出せる方向に導きたい ・十分なくらい実施されていると思う。しかし、手取り足取り指導していると、自分で考えられなくなるのではないかと思う ・外部模試があまり活用されていないように感じた ・外部模試の分析・検証が生徒個人レベルまで伝わりきっていない印象を受けた。生徒個人に対するレクチャーをもっと実施する必要性を感じた ・外部模試は内容が難しいので、ていねいにフォローしていく必要がある ・模試の事後の振り返り、アクションや指導がまだまだ行き届いていない ・結局、AO・スポーツ推薦・指定校重視の方向性を改めることができなかった。部活顧問と価値観・指導方針についてすり合わせる必要がある ・高校3年生から個人的に依頼を受け、数名の小論文や面接の指導を行った。「既に担任の先生から指導を受けた」と生徒が持参した志望理由書や小論文を読むと、かなり稚拙なものが多かった。担任や国語科の「個人的な」指導では、これだけ多くの生徒の進路指導を行うことは不可能であり、もっと「体系的な」指導を考えていかなければ、今後の進路指導面における成長はないだろうと感じる ・本校のような中高一貫校だと、どうしても高1の授業が中学のレベルに引きずられてしまう。高校入学時にある程度ショックを与える指導が大切である ・高1のときから大学進学について、総合の時間を使い、指導していった方がいい ・現状では学力・希望進路の分析による生徒個々に対する指導は難しい。常に英検、定期テスト等と続き、時間的な問題がある) ・学級経営について、知識、ノウハウの共有化が必要。担任の力量の差が大きい ・教員の教科・進路指導の力量向上を図るために研修にもう少し行きやすい環境ができてほしい ・個別面談に教員の意識の差があるように感じる ・文理分けや受験指導でのトラブルも増加しているように思う ・総合的な学習の時間を進路やHR活動の時間にもっと割いてもよいと思う ・学習で大学へ行く自覚をもう少し持たせなければならない ・まだ明確はできる 	<p>A 12.5 %</p> <p>B 75.0 %</p> <p>C 12.5 %</p> <p>D 0 %</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の進路指導はきめ細やかにやっていただけたと思う。個人一人ひとりを指導していくことは大変なことだと思う。 ・保護者と協力してできるところは連携してやっていければと思う。先生にだけ頼るのかどうかと思うが、先生方も保護者の考え共有してほしい ・子どもが向上心を持ち目標大学についての意見交換のための三者面談は有意義である ・子ども自身が自分の思いを素直に伝えている。よい関係だと思ふ ・現役合格達成に向けた指導がすばらしい ・「高1・2年生の間で9割ほど目標設定を完了できるような環境づくりが大切かと思う。特に、高1年生は学校生活への慣れなど、主である学習以外のところにどうしても時間を取られてしまう。それを踏まえた上で、目標を少しずつ上方修正できる環境を各授業・教科で作し、可能性を引き出せる方向に導きたい」という考えを大切にしていきたい ・上の子の受験において、外部模試はとても重要だったと記憶していますが… ・学校内外で耳にするのは先生方の指導力や人として尊敬できるかということに差があるようです。よく分かりませんが気になるようです ・先生によって理解しやすかったり、そうでなかったりはあるようです ・AO入試の取り組み事例を示してほしい
----------------------------	----------------------------	--	--	---	--

<p>Ⅱ 進路指導 の充実</p>	<p>難関大学等の合格に向けた指導</p>	<p>①国公立大学及び難関・中堅私立大学に合格できるような学習・進路指導を推進する 国公立大学のAO推薦にも積極的に挑戦する 【第3学年 進路目標】 東大・京大・国公立大医学部→5名以上、 旧帝大→15名以上、 国公立大→100名以上、 静大→20名以上、 早大・慶大→10名以上、 GMARCH・東京理科・関関同立 →100名以上合格 ②東大・京大等の入試問題研究を行い、合格へ向けての効果的な指導を研究する ③新大学入試制度に向けての研究と対策を行う ④実力養成のための授業力強化及び個別指導を充実させる ⑤高3センター試験後、国公立受験計画立案に学年の指導力を発揮し、二次対策講座の実施方法・内容も改善、計画完投の指導法を確立する</p>	<p>①◇H29年度は国公立大学合格者の4割に当たる19名がA0・推薦入試で合格を勝ち取ったが、H30年度は全体の2割に当たる9名にとどまり合格率も24.3%と苦戦した。国公立では定員の3割をこの形式の入試で確保することになるため、より早い候補者の人選と指導開始が大切だと思われる。また、それに伴う後期日程の定員削減が原因と思われるが、後期の合格は8名で、例年合格率は3～4割であったが、15%と大変厳しいものになった。また私大も、H29年度に引き続き合格者の絞り込みの影響でMARCH・東京理科・関関同立は、42と苦しい戦いとなった(H29は57)。 ◇現役合格 国公立大学 → 東北1名(旧帝大計1名)、静岡8名、静岡県立6名、国公立大学計46名合格。 難関私立大学 → 早稲田5名、慶応1名、上智1名、明治2名、青山学院1名、中央8名、法政2名、東京理科1名、関西2名、関西学院3名、立命館8名 計42名 ②◇最難関大学に挑戦する学力トップ層への指導については、H29年度同様、ベテラン職員の個別指導であったが、ノウハウを継承するためにも、中堅・若手職員も参加しチームでの受験指導体制を構築すべきであろう。 ③◇外部研修に積極的に参加する職員も多いが、校内研修においてその報告を義務付けたい。 ④◇各教科とも放課後の個別指導は、積極的に取り組んで頂けた。 ⑤◇二次対策講座は、H29年度よりさらに回数を増やすことができ、取得率も67%から83%と大幅にアップしたが、合格には結びつかずなかった。二次出願検討での前期の強気の出願が影響したと考えられる(そういう傾向の生徒に限り後期を未受験の場合もあった)。</p>	<p>A 8.5 % B 67.6 % C 15.4 % D 8.5 %</p>	<p>・高3年度は春休みに春期特別講座を実施した。その目的は偏差値50付近の成績中間層の学力補完であった。また、夏休みの講座も強化ポイントを明確にして募集を行った ・本年度はAO・推薦対策として学研の小論文講座を導入。志望理由書の書き方の基礎講座や学部・学科別の小論文対策講座等を受講、添削指導を積極的に受ける生徒が多かった ・「9時まで学習」+「放課後指導」を今後も引き続き継続していきたい ・入学時から卒業まで、上位を目指すという本校の建学理念を伝え続ける必要がある ・後期からの旧帝受験生の個別指導は必須 ・二次対策講座は基本的に個別指導の方が成果は上がると思う ・与えることは与えているがフォローできていない ・私大・国公立大難化の対策をもう少し全体で行っていくべきである ・国公立大学推薦入試について、年毎に蓄積されているとのことだが、どこに集約されているのか不明。調べやすくするために統一のデータベースを作れないか ・生徒の難関大学入試問題対策を授業、宿題で実施する方法を確立していきたい ・共通テストに向けた研究を各教科で積極的に行えればと思う ・今後、新入試の研修が必須 ・新大学入試への対応は避けて通れない。教員全体で対応を検討すべき ・東大・京大・医学部への対応は全体で考えるべき ・最難関大学への指導も大切だが、そうすると、ごく一部の生徒しか指導の対象でなくなる。そういう大学に進学できるのは麻布・開成クラスの学校でも少数。地元の国公立に進学させることも重視すべき ・指定校推薦と国公立受験を並べた時にほとんどの生徒と保護者は指定校推薦を取る。現状で普通科から国公立大学合格者を増やすことは極めて困難である。そもそも、推薦で大学に入ることを前提に入学してくる生徒も多いのだから、「推薦をもらう」という意識が根付いてしまっている。このような状況下で国公立大学合格者を増やすためにも、授業担当者が国公立に合格させる学力を身に付けさせるという強い意識を持つことが必要だと感じる ・まだ満足すべきでない。個別指導を充分に行える時間的余裕も必要 ・「9時学」だけでは不十分であると思う。塾と連携した方が実績は出ると思う</p>	<p>A 12.5 % B 87.5 % C 0 % D 0 %</p> <p>・進路指導にも満足している。子どものモチベーションを維持しながらの指導には大変さを感じる ・新しく始まる大学入試共通テストに向けて、今後とも指導をお願いします ・夏休みに面談があるが、夏休み以降の外部模試を受けての面談もしてほしい ・受験に向けてどう進めたらよいか、助言をもっとほしい ・中学からの内進生は中学の時から大学受験を目標にしている。高校からの外進生は高校受験で一度、受験に対しての気持ちがりセットされてしまう気がする。生徒一人ひとりが将来を考え、大学受験をすることが望ましいと思う ・難関大学に合格することが生徒にとってよいことなのか？</p>
<p>Ⅲ 心豊かで さわやかな生徒の 育成</p>	<p>社会性や道徳心の育成</p>	<p>①礼節を重視し、様々な場面で、マナーや社会的規範意識を育成する。正門一礼や予鈴黙想の励行なども継続して指導する ②校内外の美化や教室等の整理整頓に対する指導 ③交通マナーの指導を強化し、地域住民の苦情をなくすとともに交通事故防止を図る 【交通事故10件以内】 ④徳育を強化し、思いやりの心を育成するとともに問題行動の発生を防止する ⑤生徒の様子を観察、生徒面談、いじめ調査等を活用して、いじめ行為防止に取り組む ⑥インターネットなどSNSについての啓蒙を行い、問題発生を防止する 【いじめ調査年3回実施】 ⑦教員の生徒指導力、クラス経営力向上のための研</p>	<p>①◇礼節指導を継続して指導した。挨拶は良好である。 ◇校外での社会道徳や一般常識の一層の向上が必要である。 ②◇サッカー部、陸上部、野球部等の自主的な清掃活動(早朝等)により、校地や学校周辺の環境美化ができた。 ◇HRで清掃活動指導を行ったが、指導しきれない部分もあった。 ③◇交通安全委員による街頭交通指導は交通安全推進に貢献した。生徒課による街頭指導の実施。 ◇交通マナーについてHR等で繰り返し指導したが、地域住民から交通マナーに対する苦情が時折寄せられた。 ◇【交通事故18件】内5件は相手側の過失、重症事故1件、その他軽微な事故であるが、重大事故に繋がらないように日常の指導継続。</p>	<p>A 18.3 % B 63.4 % C 16.9 % D 1.4 %</p>	<p>・気持ちのよい挨拶ができて言うと思う ・マナー、あいさつは良好であると感じる ・本年度の高校1年生は顔を知らない生徒であっても、とてもよく挨拶をしてくれる ・マナーは他校に比べたら格段に良いと思う ・昨年度は生徒指導事案が少なかったと思う。このまま「0」に向けて指導していきたい ・校外でスマホを使っている生徒をしばしば見かける。ルールの徹底が必要である ・携帯電話の持ち込み、学校指定以外の袋のみで登校、正門一礼等、見ても指導しない教員が数多くいる。やるのであれば統一した指導をしていかなければならないと思う ・校内美化意識が低く、清掃が徹底しない。現場教員の指導意識の改善が必要である。その場の「清掃させるという指導力」と「清掃指導は必要なものであるという認識(土足で職員室・校内に出入りする教員がいることが残念。清掃活動そのものが否定されてしまう) ・普段の日に生徒が清掃をしていなくても、何も言わず、教員がその生徒と話し続け、近寄りやすい(注意しがたい)雰囲気の時がある ・日々の清掃が行き届いていない。いつも監督するはずの教員がいない教室もあり、疑問を感じる ・部活に頼る清掃が多い。他の生徒はやらないのか</p>	<p>A 0 % B 100 % C 0 % D 0 %</p> <p>・挨拶ができています。継続してほしい ・さわやかな挨拶ができています。継続してほしい ・学校で会う子どもたちも先生方もとても好印象です ・中学生のヘルメット着用は守られている ・明誠中、さらによくあってほしい ・最近、あいさつする生徒が減っている。特に女子のあいさつはひどい!とてもがっかりしている ・自転車に乗りながらスマホで大音量の音楽を流しているのをよく見かける。特に、運動部が多い ・携帯の持ち込みは注意されないの、 “今の時代、当然” のように思っている生徒・保護者が多い。しっかり守っている保護者はよいにストレスだと思 ・屋休みに生配信をして楽しんでいる生徒もいる ・気になるのはトイレの汚さです。トイレでスリッパに履き替えないのも不衛生です</p>
<p>Ⅲ</p>						

心豊かでさわやかな生徒の育成	修（救急救命法、人間関係構築、カウンセリング、コーチング等）の研修を実施する	<p>◇自転車施錠点検を実施。施錠率を向上したが、定着しない生徒もあり継続指導が必要。</p> <p>④◇問題行動・自転車無断借用1件。定期テスト時の不正行為2件。</p> <p>⑤〇いじめ調査は3回(7月、11月、2月)実施したが、実施時期を早めたことにより、早期対応ができた。いじめに関する調査、イーカードの活用はいじめの防止に役立った。</p> <p>⑥ SNSによるトラブルは特になし。 ○【いじめ調査年3回実施】</p> <p>⑦救急救命法の実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットパトロールなどの導入を考える時代になってきたように思う ・インターネット上のトラブルは教員側には見えない特性を持っているため、常に注意していく姿勢が必要である ・服装について、もっと指導を徹底したい ・交通安全、特に自転車のマナーは概ね良好と思えるが、早朝や遅い時間（帰宅時間）など、道路の横切りなどが見られることは残念である。他人の目がない時も自律できる生徒の育成に引き続き努力していきたい ・交通マナー指導は行っているものの効果は上がっていない。駅周辺、帰路での並進が多すぎる。指導の仕方も改善が必要ではないか ・生徒課で会議が必要な生徒指導案件はなかったが、自転車マナー、郊外での行動など、マナーの点で指導されることが多かった（高3） ・交通マナーが悪いように感じた。自転車マナーの向上をもっと指導していきたい ・くり返し、くり返しの指導の徹底を心がけたい ・交通事故が多数発生しているため、交通指導の強化が必要である ・交通マナーがいつまでたっても良くなる。交通安全教室を平日に行うべき ・交通マナー、校外でのマナーを啓発する必要がある（事故や注意を受けた際の応答など） ・外部からの苦情に対応する前に、やるべきことがまだまだある ・本校では女子指導ということで「乙女塾」というものが存在しているが、今の世の中では男子と女子を分けることは性差別と言われかねない。性同一性障害を抱えた子どもの気持ちは考えたことがあるのだろうか。「自分とは違う性」の勉強をしなければならぬということは屈辱的である。そして、「女だからできないわけではない」という考え方は古いのではないか ・言われたことしかできない、考えることができない生徒が増えている印象 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚いトイレは使いたくない。きれいにしようという気持ちを子どもたちが持ってくれるといいと思う ・教員が掃除に対する美化意識、掃除方法等を再認識してほしい ・自転車の並進走行が時折見られる。一旦停止をしない。人がいてもスピードを上げて走る。いずれも命にかかわることなので、特に厳しし注意が必要である ・自転車での2・3列並走、飛び出しなどがあり、自転車のマナーが守られていない。繰り返しの指導が必要だと思う ・自転車のマナーが悪すぎる ・交通マナーは毎回の課題となっているが、悪すぎる ・一部の教員が喫煙場所でないところで喫煙しているのを目撃している。ルールを教員が守れず生徒に指導できるのか。運動部の先生、猛省していただきたい
基本的な生活習慣の確立	<p>①欠席や遅刻等の減少を図る。インフルエンザについては感染防止対策を徹底する</p> <p>②正しい身だしなみの指導を徹底する 【学年全体風紀指導年6回実施】</p> <p>③ジャージ・サマーセーター等の着用指導を徹底する</p> <p>④基本的な生活習慣の指導を職員の共通理解のもとに実施する</p> <p>⑤校則遵守の徹底を図る</p>	<p>①〇各クラスに手指消毒薬の導入と教室の換気等の徹底により例年より患者の減少が見られた。 ◇遅刻が減少するには至らなかった。</p> <p>②〇学年校風指導を学年団の意思統一のもとで6回実施した。服装面で大きな乱れもなく、スカート丈についても良好であった。 ○【学年全体校風指導年6回実施】</p> <p>③〇基本的な生活態度はある程度確立されていた。体育、清掃・作業時以外のジャージ着用は見られない。 ○乙女塾の実施等、女子指導は充実してきた。 ◇さらに職員の指導の共通性を図りたい。</p> <p>④〇生徒は校則をおおむね遵守していた。</p>	<p>A 26.8 %</p> <p>B 53.5 %</p> <p>C 14.1 %</p> <p>D 5.6 %</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席・遅刻等は少ないように感じる ・普通科は欠席も遅刻も少ない ・悪い印象こそないが、良いと言いつけるほどではない ・スカート丈、制服の着こなしは近年、かなり改善している。服装は良好である ・マナーや校則違反でのトラブルがなく、落ち着いて生徒が生活できている ・特に女子指導について、規定やノウハウを作っておき、共通性を図ることができるようになっていく ・サマーセーター等を購入したにもかかわらず、着用することができないものがあるということは、おかしなことである。改善すべきである ・服装の規定が突如変更になるということは、生徒側の見方からするとあまりよくない ・ネームなど、なかなか徹底できない事項がある ・部活によってはジャージで下校する生徒もいる ・季節の節目や大きな気候変動時など、細心の注意を促しているが、欠席の多いままであった ・遅刻生徒が多い。遅刻指導をする教員にも限度がある ・こころやからだに悩みを抱える生徒が増えているので、その対応をできるようにしていきたい ・乙女塾があるから女子指導の徹底がなされているという論理はおかしい。普段の校風検査で指導したり、日常的に指導すればよい 	<p>A 0 %</p> <p>B 100 %</p> <p>C 0 %</p> <p>D 0 %</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校外で見かける子どもたちも、制服をだらしく着ている子はあまり見ません。とても良いことだと思う ・インフルエンザ流行時の手洗い、うがいの徹底。特に大学受験時期はマスク着用などの徹底。感染予防に努めていただきたい ・家庭との連携が必要と思う ・校風指導がゆるみ始めると規則を守らない生徒が出始め、楽な方に流れやすくなるので、手抜きのないように指導をお願いしたい ・高校生らしい身だしなみをきちんと教え、理解させること必要である ・制服着用規定と違う指導がされていることがあるのではないかと ・ベストを購入したが、着る時期がはっきりしていないのではないかと ・リュックを導入していただきたい

	部活動の充実	<p>①学習と部活動の両立を一層推進しつつ、生活面での指導も強化することにより、心身を錬磨し、自律的な精神と協調性を養う</p> <p>【部活動加入率 80%以上】</p> <p>②県大会や全国大会への出場及び各大会での上位進出を果たす</p> <p>【県大会出場～全ての部、全国大会出場～4部】</p>	<p>①〇多くの生徒が部活動に加入している。</p> <p>○【部活動加入率約 81%】</p> <p>○各部のテスト前の集団学習が活発になってきた。</p> <p>○各部とも積極的な活動が行われた。</p> <p>○試合の結果のみならず、各部活動を通じて人間形成にしっかりとした取組が出来るようになってきた。</p> <p>◇活動場所の施設の徹底が不十分であった。</p> <p>◇登下校時の服装、早朝時の自転車走行(併進、一時停止)について指導。</p> <p>②〇陸上部、バスケットボール部、棋道部、射撃同好会が全国大会に出場した。またチアリーディング部の活躍や図書研究会が高校生直木賞に参加、吹奏楽部等も県大会で活躍した。ほとんどの部が県大会に進出した。</p> <p>○【県大会出場～ほとんどの部、全国大会出場～4部】</p>	<p>A</p> <p>38.0</p> <p>%</p> <p>B</p> <p>57.8</p> <p>%</p> <p>C</p> <p>0</p> <p>%</p> <p>D</p> <p>4.2</p> <p>%</p>	<p>・女子テニス部が県大会に出場した</p> <p>・どの部活も良い成績を残せており、学校の勢いにもつながっている</p> <p>・運動部の活動が学校全体の雰囲気・勢いを支えていると思う。特に、普通科の生徒たちの授業態度、生活態度が保っているのは、部員数の多い運動部の指導のおかげだと思う</p> <p>・部活動が活性化されて、良好な結果が出ていると思う</p> <p>・全員頑張っています</p> <p>・土曜日の有欠が多すぎる。一定の制限を設けるべき。顧問が申請すれば、どんな大会でも許可なのは疑問(応援も含めて)</p> <p>・登下校時の交通マナー、服装が徹底されていない。校外でどこまで指導できるかということもある。言い続ける他ないと思う</p> <p>・施設問題は深刻である</p> <p>・学習と部活、両立させたい</p> <p>・女子の部活動の充実をして、生徒募集につなげたい</p>	<p>A</p> <p>12.5</p> <p>%</p> <p>B</p> <p>75.0</p> <p>%</p> <p>C</p> <p>12.5</p> <p>%</p> <p>D</p> <p>0</p> <p>%</p>	<p>・毎回の活躍がとても励みになっている</p> <p>・野球部の活躍で盛り上がっている</p> <p>・部活動の生徒も頑張っていて、うれしい。メディアにも報道されて生徒募集にもとてもいいと思う</p> <p>・もう少し部活動の活躍を保護者にも知らせてほしい。生徒が一生懸命頑張っていることを保護者が知らないということは残念である</p> <p>・学習と部活との両立は難しい。テスト2・3週間前の休みなど、生徒とのコミュニケーションを取って、有意義な活動にしてほしい</p> <p>文武両道の問題をどのようにしていくか、課題だと思う</p>
IV 広報・渉外活動の充実	効果的な広報活動による学校理解の促進	<p>①広報誌の発行、報道機関への周知等様々な手段を通して、本校教育に対する保護者や地域社会の理解を深める</p> <p>②ホームページ(HP)の更新を積極的に行い、効果的な情報発信を行う。また、学校説明会参加者を増やす情報を提供する</p> <p>【年間訪問者 163,000人以上、直帰率 39%未満】</p> <p>③より本校理解が深まり、募集に効果的な内容にするために、広報誌等の見直しを行う</p> <p>④地域の自治会等への情報提供や学校行事への招待等を積極的に行い、学校理解の促進と広報の推進を図る</p>	<p>①〇「明誠ニュース」「進路だより」保護者会広報誌「初心」など予定通り発行した。</p> <p>○日刊スポーツ社に委託して「学校紹介新聞(科・コース版・部活版)」を発行し、小中学生の募集活動に活用した。</p> <p>○部活動・同好会の様子を紹介し、中学生の多様性に対応できるように努めた。</p> <p>○保護者会地区会で出された質問や要望への回答を文書で配布した。</p> <p>②〇HPの訪問者数が大幅に増えた。HPの更新を積極的に行い、内容の工夫も行った。</p> <p>〇◇【リニューアル(2017.10.1~2018.9.30)の訪問者 162,189人、月平均 13,516、直帰率 38.5%】</p> <p>③〇入学式、卒業式、文化祭、体育大会に自治会役員を招いた。</p>	<p>A</p> <p>31.0</p> <p>%</p> <p>B</p> <p>59.2</p> <p>%</p> <p>C</p> <p>4.2</p> <p>%</p> <p>D</p> <p>5.6</p> <p>%</p>	<p>・渉外担当の皆さんが頑張ってくださっている</p> <p>・よく広報活動に努めていると思う</p> <p>・年々、新しい取り組みが始まり、よりわかりやすく、よりシンプルになっていると思う</p> <p>・広報紙は見やすく、効果を上げていると思う</p> <p>・HPを積極的に更新していくことで、楽しみにしてくれる人、興味を持ってくれる人が増えると思う</p> <p>・地区会などで保護者にしっかりと対応できていた</p> <p>・日刊スポーツ紙に学校案内を載せることが生徒募集にどの程度役立っているのか、検証する必要がある</p> <p>・卒業生すべてに「明誠ニュース」などを送付するのは経費が掛かりすぎるので、やめた方がいいと思う。送るのは卒業後3年程度で十分だと思う</p>	<p>A</p> <p>25.0</p> <p>%</p> <p>B</p> <p>75.0</p> <p>%</p> <p>C</p> <p>0</p> <p>%</p> <p>D</p> <p>0</p> <p>%</p>	<p>・大変、充実していると思う。感謝している</p> <p>・広報紙も読ませていただき、学校理解を深めることができた</p> <p>・入学前はホームページで積極的に情報収集した</p> <p>・明誠のことがより詳しくわかり、知ることができてとてもいいと思う。これからは担当の先生の頑張りをお願いしたい</p> <p>・募集に直結することである。さらに充実させてほしい</p>
	積極的な渉外活動の実践	<p>①小中学校への積極的な学校訪問等により募集の拡大を図る。併せて、入学者の増加に有効な方策を具体的かつ速やかに実施する</p> <p>②小笠・榛原・焼津・島田・藤枝の各地域の訪問重点校と訪問校を定め、組織的に募集活動を展開する</p> <p>③学習塾への訪問を行い、募集の拡大を図る</p> <p>④県外募集の充実を図り、有為な生徒の確保に努めるとともに入試内容・方法について見直す</p> <p>⑤「一日体験入学」「入試直前相談会」の充実、取り組みの強化を図る</p> <p>【学則定員の確保】</p>	<p>①②〇一日体験入学の参加者は生徒 1,335人、保護者 705人、合計 2,040人と昨年度より約 250人減少したが、1週間後の説明会には生徒 184人、保護者 136人、合計 320人の参加者があった。</p> <p>年間説明会参加者は生徒 2,384人、保護者 1,548人となり、昨年度より約 300人減少した。今年度は直前説明会を日程の関係で1回減らしたことで、志太・榛原地区の中3生数が 240人減であったことも影響したと思われる。</p> <p>○志太、榛原地区への中学校訪問を職員で分担し、3年主任や進路指導主事と直接面談して募集拡大を図った。また、通学費補助の対象となる静岡、小笠地区では重点校を絞り募集活動を行った、さらに、学習塾への訪問を積極的に行った。</p> <p>各中学校が計画する進路学習会への参加依頼は 19校(前年と同数)であった。また、小笠地区の全中学校から本校への志願者(単願・併願)がいた。</p> <p>○高校入試の志願者・入学者数は、普通科が 776人(単</p>	<p>A</p> <p>40.8</p> <p>%</p> <p>B</p> <p>49.3</p> <p>%</p> <p>C</p> <p>2.8</p> <p>%</p> <p>D</p> <p>7.1</p> <p>%</p>	<p>・十分だと思う。生徒募集に関してはとても充実していると思う</p> <p>・渉外担当の教員だけでなく、多くの先生方の協力を頂いている</p> <p>・説明会や中学校訪問を密に行っているため、中学生も興味を持ってきている。中学の先生方も明誠を評価してくれているので、もっとプッシュしていきたい</p> <p>・中学校訪問の先生方のおかげで、たくさんの生徒を呼ぶことができています。そのような努力が必要なのだなどあらためて実感した。地道な努力を重ねていかなければ、今の時代ではやっていけないのだなど感じた</p> <p>・熱心に取り組んでいるようだが、どれほど効果を上げているかわからない</p> <p>・説明会にも工夫が図られ、中学校訪問も多くの教員で分担し、変化がみられる。もっと募集に対する意識を全ての教員が持つ必要性を感じる</p> <p>・中学校訪問における対応の温度差について、改善する方法に苦慮している</p> <p>・一日体験等、募集行事において教職員間でさらに連携をとり、一丸となってあたるべきである</p> <p>・英数科でも運動部の活動ができる状況にするためにHR担任の理解が必要である。そうすれば学力優秀で部活動もやりたい生徒が本校へ向くと思う</p>	<p>A</p> <p>37.5</p> <p>%</p> <p>B</p> <p>62.5</p> <p>%</p> <p>C</p> <p>0</p> <p>%</p> <p>D</p> <p>0</p> <p>%</p>	<p>・大変、充実していると思う。感謝している</p> <p>・中学受験を 11月下旬に木俣、個別に説明を受け、入学試験に間に合った</p> <p>・これからは先生方の頑張りをお願いしたい</p>

		<p>願146)、英数科が801人(単願112)、合計1,577人(単願258)となり、入学者は昨年度より単願で34名減少した。併願者の戻り76名を含め入学者は334名となり、学測定員385名に満たなかった。</p> <p>③◇福岡・札幌入試は、受験者は125人(昨年比19人増)で、単願合格者は5人であった。併願合格者の中には本校入学に前向きな生徒もいたが、入学には至らなかった。学習特待生の入学につながるような方策を検討する必要がある。</p>					
V 教育施設・設備 の活用	安全で快適な教育環境の実現	<p>①学習活動や部活動が安全かつ快適に実施できるように常に配慮する</p> <p>②施設・設備のより有効な活用を図るとともに、机・椅子の整備等、教育環境の整備に努める</p> <p>③清掃状況を具体的に指示し学年主任や清掃担当と協力して清掃指導の徹底を図る。また事後の点検を行う</p> <p>④破損箇所の把握と迅速な修繕を図る</p> <p>【6月・11月・2月の一斉点検実施】</p> <p>⑤電気、紙等の節約を励行し、経費と資源の有効活用を心がける</p> <p>⑥消灯、戸締まりの徹底を図る</p> <p>トレーニングルームの使用について注意・説明会を行う</p> <p>⑦地震発生時の避難や防災に関する訓練・学習会を実施し、生徒の安全を確保する</p> <p>⑧原子力災害に対する避難計画を作成する</p>	<p>①○毎火曜日早朝に理事長点検を実施し施設の安全を確保した。</p> <p>○◇清掃活動に力を入れた。改善された点と不十分な点の両面が見られた。</p> <p>◇校舎施設(特にトレーニングルーム)については徹底しなかった。</p> <p>②○机、椅子、黒板等の劣化が見られる。継続的な更新を行っている。</p> <p>③◇消灯、空調のスイッチオフ等の節電や紙の節約などはまだ十分とは言えない。</p> <p>④○5月に防災避難訓練、8月に防災学習を実施し、防災意識を高めた。</p> <p>○防災マニュアルを常時活用できるように生徒手帳に添付した。</p> <p>⑤◇原子力災害に対する避難計画は未作成であった。(藤枝市の指針が未発表のため)</p>	A 9.9 % B 60.6 % C 26.7 % D 2.8 %	<ul style="list-style-type: none"> 全体としては清掃・美化が整うようになった。各教員が自分の管理場所の清掃担当の生徒への指導を徹底するとさらによくなる 終礼打合せが清掃時間に食い込むことが多く、監督者は開始のチャイム時に清掃場所にいるのが望ましいと思うが。(監督者がいなくても生徒個々が誠実に清掃を行うのが本来であろうか) タイムテーブルでどうにかできないものか。 清掃時の服装の指導を統一して行う必要がある。体育ズボンに着替えられない高校生が数多く見られる 清掃活動はよくできているが、安全管理は甘い トレーニングルームも使用時間を決めた方がいいと思う トレーニングルームの使用に関しては、関係部活活動を毎年集めて指導するガイダンスが必要であると思う トレーニングルームの使用についての説明会は大切な取り組みであったと思う 施設がしっかりされていないことがあった 自主練習でも顧問は学校に居るべき。顧問が不在時は自主練習はやめさせることを徹底する 昇降口の靴の整頓状況は去年から全く改善が見られない。学校の入り口でもあるので少し恥ずかしい 夏季、冷房が効かないと何度かクレームがきているが、直してもらえないものか 生徒の体が昭和時代と比べて大きくなっているため、手洗い場、手すり等、安全な設備に少しずつ変更していく必要性を感じる 視聴覚関係でPC等の利用ができるように整備すべきである。本校は他校に比べ遅れていると思う 予備教室が少ないので、いろいろなことを行うのに不便である トイレの洋式化は募集においても必要だと思う トイレの劣化が目立つ トイレの改善を至急、望む 陸上の走路の凹凸はひどい。体力テストの計測で転んでしまっている 以前、学年集会で武道場へ行き、床の堅さに驚いた。本校では武道を必修にしているのに、これほど堅い床では腰を悪くする生徒が出てくると思う。必修にするのならば、整った環境でやらせるべきではないか 経年によるトラブルを防ぐために迅速な対応の必要性はある 校舎の老朽化が目立つ 校舎の全体的な老朽化が進んでいるので、更新をしていかなければならない(特に、水回り) 施設状況やトレーニングルームの使い方にも改善が見られない 教室の電灯がつかない状態が数ヶ月にわたって続いた(310HR) →LED化完了 黒板やチョーク等の品質が悪い 帰宅困難者が多く出る可能性がある本校で、基本ラインは親の迎えを待つであるが、そうでない場合も想定すべきである 	A 0 % B 75.0 % C 25.0 % D 0 %	<ul style="list-style-type: none"> やはりトイレの汚さは気になる。あのトイレを見るとがっかりする。洋式よりも和式の方が汚れやすいのも事実である トイレの汚さや古さについて学校の内外で残念だという話を聞く 私立は公立よりも設備が整っているとおもっている方は多い。今後も多くの生徒に受験してもらうためには設備を整えることも大事だと思う いつもトイレの問題が出ている。すぐに改善してほしい “きれいなトイレだときれいに使う”生徒の性格が悪くなりそう トイレを洋式にしてほしい 危険な箇所があったら早急に修理し、安全性への配慮が必要である 原発の災害におけるヨード剤配付など、学校としてのマニュアルを作成し、学校と保護者と共有したい 防災への意識を常に高めてほしい 課題が少しずつなくなるように願いたい 環境整備は保護者もたいへん関心をもつところである。学校経営側との調整も、大変だが必要ではないか